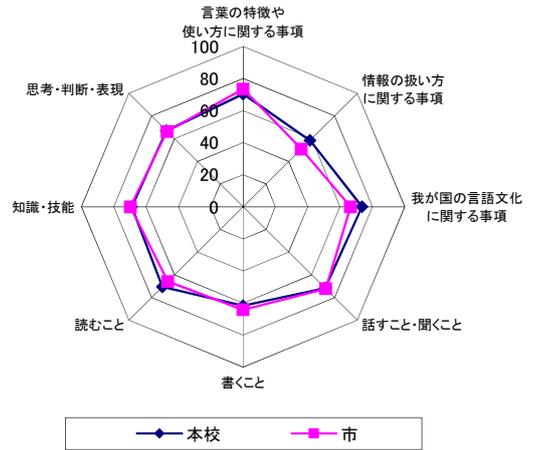


宇都宮市立清原中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 言葉の特徴や使いに関する事項 | 70.3 | 73.5 | 74.4 |
| | 情報の扱い方に関する事項 | 58.5 | 51.0 | 51.5 |
| | 我が国の言語文化に関する事項 | 73.6 | 66.5 | 68.8 |
| | 話すこと・聞くこと | 71.7 | 72.3 | 73.7 |
| | 書くこと | 61.6 | 64.3 | 66.6 |
| | 読むこと | 70.4 | 65.8 | 64.9 |
| 観点別 | 知識・技能 | 68.9 | 69.8 | 70.8 |
| | 思考・判断・表現 | 67.2 | 66.5 | 67.3 |
| | | | | |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

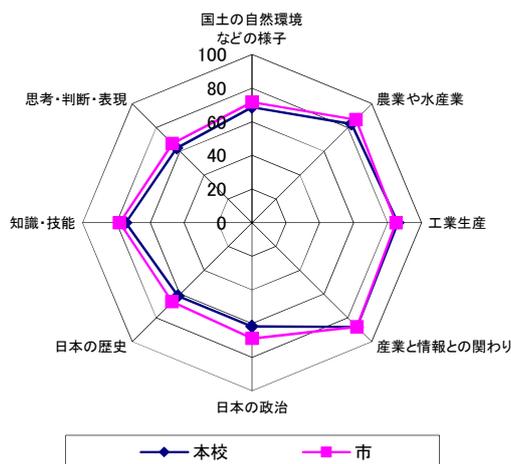
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|----------------|---|---|
| 言葉の特徴や使いに関する事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は70.3%で、市と比べて2.8ポイント低い。 ○三字の熟語の成り立ちの問題の正答率は79.2%で、市より10.6ポイント高い。 ○文と文との接続の関係の問題では54.7%で、市より3.4ポイント高い。 ●第6学年の配当漢字を読む問題では、全問市の平均を下回った。特に「潮」の正答率は90.6%で、市より6.4ポイント低い。 ●第5学年の配当漢字を書く問題では、市の平均を下回った。特に「破れる」の正答率は50.9%で、市より20.6ポイント低い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・漢字のもつ意味や使い方等を教え、熟語等を自ら調べる活動を行う。 ・漢字ドリルやAIDドリルを活用して、既習漢字の練習を家庭学習等で行うようにする。 |
| 情報の扱い方に関する事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は58.5%で、市と比べて7.5ポイント高い。 ○情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理する問題では、正答率が69.8%であり、市の平均正答率より19.1ポイント高い。 ●情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書く問題では、正答率が47.2%であり、市の平均正答率より4.1ポイント低い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・意見文や報告文など様々な文章に触れさせ、自分の言葉で情報を整理したりまとめたりする機会を多く設けるようにする。 |
| 我が国の言語文化に関する事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は73.6%で、市と比べて7.1ポイント高い。 ○語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語についての問題では、正答率が73.6%であり、市の平均より、7.1ポイント高い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・5年時に学習した和語、漢語、外来語について復習し、知識の定着を図ったことが効果的であったと思われる。さらに新出漢字の練習で、音読み・訓読みを意識させながら、成り立ちや由来についてふれるようにする。 |
| 話すこと・聞くこと | <ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は71.7%で、市と同程度である。 ○話の内容を捉える問題では、正答率が96.2%であり、市の平均より2.7ポイント高い。 ○意図に応じて、質問を工夫する問題では、正答率が83%であり、市の平均より6ポイント高い。 ●自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える問題では、正答率が35.8%であり、市の平均より10.6ポイント低い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・意図や目的に合わせて聞いた話を要約したり、整理して書いたりする力を身に付ける指導を行っていく。 |
| 書くこと | <ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は61.6%で、市と比べて2.7ポイント高い。 ○指定された長さで文章を書く問題では、正答率が75.5%であり、市の平均より7ポイント高い。 ●目的や意図に応じて、書き表し方を工夫する問題では、正答率が56.6%で、市と比べて7ポイント低い。 ●予想される反論とそれに対する意見を書く問題では、正答率が41.5%で、市と比べて5.6ポイント低い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・資料の内容を読み取り、それに対する自分の意見をまとめて書く活動を多く取り入れる。事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力を高める。 |
| 読むこと | <ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は70.4%で、市と比べて4.6ポイント高い。 ○説明文において情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理する問題では、正答率が69.8%であり、市の平均より19.1ポイント高い。 ●説明文において文章全体の構成を捉えて、要旨を把握する問題では、正答率が28.3%であり、市の平均より6.6ポイント低い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・本や文章を読む機会を確保するとともに、文章中の重要な語句を探したり、内容を要約するなどの活動を通して、要旨を把握する力を高める。 |

宇都宮市立清原中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|--------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 国土の自然環境などの様子 | 68.7 | 71.6 | 69.6 |
| | 農業や水産業 | 83.0 | 86.7 | 83.7 |
| | 工業生産 | 86.2 | 85.0 | 79.5 |
| | 産業と情報との関わり | 87.7 | 87.7 | 77.4 |
| | 日本の政治 | 61.8 | 68.9 | 71.7 |
| | 日本の歴史 | 61.8 | 66.7 | 66.3 |
| 観点別 | 知識・技能 | 74.5 | 78.0 | 76.7 |
| | 思考・判断・表現 | 62.7 | 66.4 | 63.1 |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

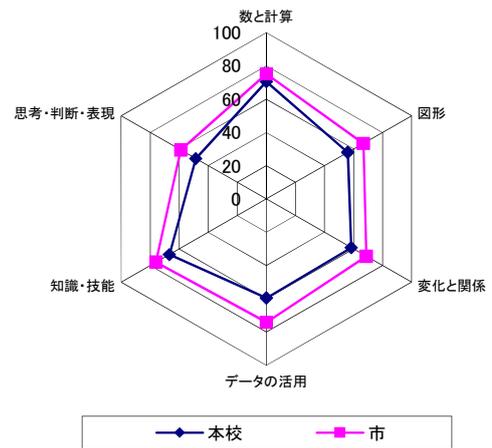
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|--------------|---|---|
| 国土の自然環境などの様子 | <ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は68.7%で、市と比べて2.9ポイント低い。 ●オーストラリアの位置と国旗を問う問題では、正答率が73.6%であり、市の平均より7.5ポイント低い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業で学習した内容について、資料集やインターネット等で詳しく調べ、貿易相手国として自分の生活につながるのある国を身近な問題として捉えさせる。 |
| 農業や水産業 | <ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は83.0%で、市と比べて3.7ポイント低い。 ●米の生産の工程を問う問題では、正答率が75.5%であり、市の平均より6.1ポイント低い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本の食糧生産について問題意識が高まるよう、ニュース等で取り上げられた話題などを示したり、資料集を活用したりして、関心をもって学習を進める。 |
| 工業生産 | <ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は86.2%で、市と比べて同程度だった。 ○工業製品の分類を問う問題では、正答率が98.1%であり、市の平均より5.9ポイント高い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・表やグラフなどの資料から情報を読み取る活動を丁寧に行い、繰り返し練習することで、継続して資料活用能力の定着を図る。 |
| 産業と情報との関わり | <ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は87.7%で、市と同程度である。 ○情報の発信と受信の注意点を問う問題では、正答率が81.1%であり、市の平均より2.0ポイント高い。 ●さまざまなメディアの特徴を問う問題では、正答率が94.3%であり、市の平均より2.0ポイント低い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・多様な情報メディアの特性を理解しながら、情報ネットワークに対する理解を、定着させていく。 |
| 日本の政治 | <ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は61.8%で、市と比べて7.1ポイント低い。 ●天皇の地位を問う問題では、正答率が49.1%であり、市の平均より13.9ポイント低い。 ●内閣の働きを問う問題では、正答率が34.0%であり、市の平均より8.4ポイント低い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・国会、内閣、裁判所の働きと国民を関連付けて考え、国民として政治への関わり方を考えられるように指導していく。 |
| 日本の歴史 | <ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は61.8%で、市と比べて4.9ポイント低い。 ●源氏物語について問う問題では、正答率が66.0%であり、市の平均より11.2ポイント低い。 ●元との戦いについての理解をもとに、防塁について表現を求める問題では、正答率が11.3%であり、市の平均より17.2ポイント低い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・考えや図から読み取ったことを自分の言葉で書く活動を各授業で取り入れ、表現する力を高める。 ・それぞれの時代の重要な人物について、行った政策や人物相互の関連を押さえる指導を行い、理解を深めさせていく。 ・自主学習等で主体的な学びを進める。 |

宇都宮市立清原中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|----------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 数と計算 | 70.6 | 75.1 | 75.8 |
| | 図形 | 56.0 | 66.8 | 68.3 |
| | 変化と関係 | 58.5 | 68.8 | 65.0 |
| | データの活用 | 59.6 | 74.1 | 63.6 |
| 観点別 | 知識・技能 | 66.8 | 76.1 | 75.8 |
| | 思考・判断・表現 | 48.6 | 59.0 | 51.7 |
| | | | | |
| | | | | |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

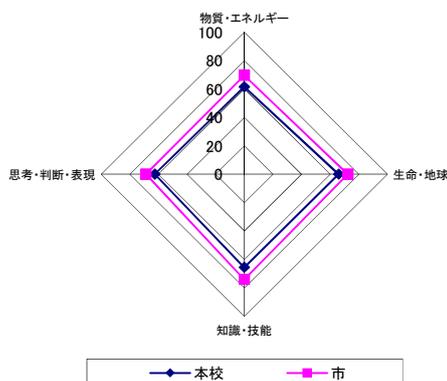
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|--------|--|--|
| 数と計算 | <ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は70.6%で、市と比べて4.5ポイント低い。 ○小数第一位×小数第一位(純小数同士の乗法)の計算の問題では、正答率が75.5%で、市の平均より9.4ポイント高い。 ●真分数+真分数=仮分数(帯分数)で、片方の分母にそろえる通分の問題では、正答率が50.9%で、市の平均より22.7ポイント低い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・計算プリントや計算ドリルでの反復学習を継続して行い、基本的な四則の計算技能を高めていく。 ・分数のたし算、ひき算の計算の仕方が理解できるように、公倍数の意味や手順を確かめながら、宿題や朝の学習等で繰り返し練習する。 |
| 図形 | <ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は56.0%で、市と比べて10.8ポイント低い。 ○合同な三角形を作図の問題では、正答率が94.3%で、市の平均より6ポイント高い。 ●正六角形の作図方法から、円の中心のまわりのできる角の大きさを求める問題では、正答率が64.2%で、市の平均より17.9ポイント低い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・正多角形や角柱・円柱など、日常では出会いにくい図形について、算数教材を有効に活用して、その形や円の中心のまわりのできる角度などの特徴を理解することができるようにする。また、図形の特徴を生かして作図につなげる指導を続けていく。 ・具体物の操作を通して、図形の面積や体積を求める公式の意味が理解できるようにする。 |
| 変化と関係 | <ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は58.5%で、市と比べて10.3ポイント低い。 ●速さと道のりから、時間を求める問題では、正答率が69.8%であり、市のポイントより9.6ポイント低い。 ●基準量と比較量から、割合を求める問題では、正答率が37.7%であり、市のポイントより16.1ポイント低い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「速さ」「時間」「道のり」の公式に頼りすぎず、用語の意味をしっかりとらえたうえで問題文を正しく読むというプロセスを大切にして、時間をかけて指導すると共に習熟の時間を多くとるようにする。 ・割合については、基準量と比較量の判別がつきづらいので、実生活や他教科等の学習の時などで具体的な事例をもって課題に取り組みさせる。その上で習熟を重ねることで更なる定着を図る。 |
| データの活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は59.6%で、市と比べて14.5ポイント低い。 ●問題の場面を理解し、4日間に走った道のりの平均から、2週間に走ると考えられる道のりを求める問題の正答率は20.8%で、市と比べて20.8ポイント低い。 ●走る距離と歩幅の平均から、ある距離を走るときにおよそ何歩かかるかを求める問題の正答率は43.4%で、市と比べて17.3ポイント低い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「理科の実験における、水が沸騰するまでにかかった時間」など、児童にとって身近な事例をもとにした問題を扱い、平均に関する関心を高め、平均と合計の求め方の定着を図る。 ・平均や合計を求める問題では、場面の読み取りだけではなく、四則計算を確実にすることも求められる。したがって、四則計算の技能を高めるために、算数の時間だけではなく、宿題や朝の学習の時間を使って四則計算の練習の機会を設ける。 |
| | | |
| | | |

宇都宮市立清原中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|----------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 物質・エネルギー | 61.5 | 69.5 | 65.2 |
| | 生命・地球 | 65.9 | 72.3 | 70.1 |
| 観点別 | 知識・技能 | 65.6 | 74.0 | 70.7 |
| | 思考・判断・表現 | 62.5 | 68.7 | 65.5 |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|----------|--|---|
| 物質・エネルギー | <ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は61.5%で、市と比べて8ポイント低い。 ○ふりこの周期はふりこの長さに依存することを理解し、同じ周期になるふりこを指摘できるかを問う問題では、正答率が81.1%であり、市の平均より10.1ポイント高い。 ●水溶液を熱すると個体が残ったことからどの水溶液であるかを推測できるかを問う問題では、正答率が54.7%であり、市の平均より19.5ポイント低い。 ●ふりこが10往復する時間から周期を求められるかを問う問題では、正答率が47.2%であり、市の平均より18.4ポイント低い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・実験からすぐに結果を出すだけでなく、確認のための実験やその方法について考える時間を設けたことが、正答率の高さにつながった。 ・実験を通して体験したことを、考察や振り返りの時間に確認し、今後も知識の定着を図る。 ・実験結果を記録するだけでなく、考察を文章化したり、他の実験と比べて基礎的な性質を表にまとめたりして、知識の定着を図る。 ・押さえない大切な言葉は、意図的に何度も使い、知識の定着を図る。 |
| 生命・地球 | <ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は65.9%で、市と比べて6.4ポイント低い。 ○流れる水の量が増えた時の水の速さの変わり方について理解しているかを問う問題では、正答率が98.1%で、市の平均より3.9ポイント高い。 ○生物と環境での自分で養分をつくることのできる生物を理解しているかを問う問題では、正答率が88.7%であり、市の平均より1.9ポイント高い。 ●動物の体のつくりとはたらきでの消化管を理解しているかを問う問題では、正答率が45.3%であり、市の平均より24.7ポイント低い。 ●同じく動物の体のつくりとはたらきでの消化された養分が小腸で吸収されることを理解しているかを問う問題では、正答率が41.5%であり、市の平均より22.3ポイント低い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・実際に校庭の砂場を利用して流れる水の実験場を設けた。目の前で土がどうなっていくかを観察できたこと、予想・実験・考察の一連の流れにそって活動できたことが流れる水の設問に対して効果を出した。 ・実験や自分の体験から得ることのできない情報は、映像資料を活用することで知識の定着につながることから、内容を吟味した上で、映像資料を授業に取り入れ活用する。 ・学習の振り返りや、復習問題を解く時間を確保し、知識の定着を図る。 ・人体模型を実際に見たり触れたりしながら、体感しながら学ぶ場の設定をするとともに、実生活でも意識して体のつくりに触れる場を意図的に設けていく。 ・体のつくりについて保健や家庭科の学習と関連付け、多くの場を設けて触れさせるようにしたい。 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

宇都宮市立清原中央小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 | 取組に関わる調査結果 |
|------------------------|--|---|
| 自分の考えをもち、主体的に取り組む児童の育成 | 自分の考えをきちんともてるよう、書く活動や問い返しなどを意図的に取り入れると共に、ペアやグループ学習を積極的に行い、主体的・協働的に考えを深め合えるための授業づくりに努めている。自分から進んで話合いに参加できるようになるための手段の一つとしては、一人一台端末の活用を意識した取り組みを行っている。 | 「グループなどでの話合いに自分から進んで参加している」について、3、4年生は市の肯定割合を上回っているが、5、6年生は下回っている。また「学習に対して自分から進んで取り組んでいる」について、4、5年生は市の肯定割合を上回っているが、3、6年生は下回っている。「パソコンを使って、相手に分かりやすく自分の考えや調べたことを伝えることができる」について、4、5年生は市の肯定割合と同程度だったが、3、6年生は下回っている。 |

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

書くことについて、4、5年生は市の平均正答率を上回っているが、6年生は下回っている。しかし、4月に行われた全国学力・学習状況調査の市の平均正答率との差と、12月に行われた学習内容定着度調査との差を比較したところ、12月の方が差が縮まっていることが分かった。したがって次年度も引き続き、書くことを意図的に取り入れた指導を行うようにする。また、知識・技能については、プリントやドリルなどを使った反復練習や、大切な言葉を意図的に何度も使うような授業の工夫、自分の生活につながりをもてるような課題の設定等を行い、定着を図るようにする。